

# エネルギーも人の心も 太陽のように明るい世の中に

I wish the future of energy and people's hearts are  
as bright as the sun



城石英伸 \*

1971～74年の間に、日本の出生数は毎年200万人を超えていた。この期間に生まれた人々は、団塊ジュニア世代と呼ばれている。この世代は「受難の世代」とも称され、人数が多かったため受験戦争が厳しかった。さらに大学卒業する頃にはバブル崩壊による経済的な不況の影響で就職氷河期となり、就職活動に失敗して「非正規雇用労働者」やフリーターや派遣労働者などにならざるを得なかった者も多かった。引きこもりも多く、近年では「8050問題」(80代の親が自宅に引きこもる50代の子供の生活を支え、経済的にも精神的にも行き詰まってしまう問題)も深刻化している。

さらに、この世代が65歳以上となる2040年には、総人口に対する高齢者率は3割強に上昇すると予想されている。年金財源や労働力不足の解消を目指し、70歳までの定年引き上げや雇用継続を努力義務とする「改正高年齢者雇用安定法」が2021年に施行された。

私自身も団塊ジュニア世代にあたる。幸いにも東京工業高等専門学校の教員として就職でき、昨年度教授に昇任することができた。そのため、定年までは(悪事を働かない限り)安泰であると信じていた。というのは、現在の出生数は80万人を切っており、高校や高専では統廃合される学校も出てきているからだ。

国公立の大学・高専は、2005年から毎年1%ずつ運営費交付金が削られ続けている。本校では、専門科目の非常勤教員は原則0名で運用し、教員の人数も自然減を用いて1学科9名まで削減するといった涙ぐましいコストカットが行われている。そのため、専門問わず授業を受け持つという指針の下、最近ではほぼ毎年新しい授業を担当することとなり、毎週その準備に追われるという苦行を強いられている。しかしながら、良いこともある。最近では授業で教材として使用するため、ディープラーニングや遺伝的アルゴリズム、バイズ理論など授業のためにある意味強制的に分野外の勉強をすることとなり、自身の専門である化学の研究に生かすチャンスを得た。

最近の趣味は、ダイエットも兼ねた天気の良いとき限定の登山だ。八王子の自宅から日帰りアクセスできる関東甲信越の山々をおよそ月1回のペースで登っている。おすすめの穴場スポットとして、山梨県の日向山を推薦したい。山頂は「天空のビーチ」と称されるほど素晴らしい光景が眼下に広がる。また、「日に向かう」というまさに太陽エネルギー学会にふさわしい山であると考えている。

心理学者のユングは人生を山登りに例えた。実際の山登りでは、頂上にたどり着けば、ほぼ下り坂で楽に山を下りる。しかし、今後は「予測困難な時代」と呼ばれ、特に今の若者の人生は、我々以上に山から山へと連続して登山する「縦走」に例えられるだろう。次から次へと「難題」という坂が現れ、それを登り続けなければならないのだ。現在の若者は、物質的には我々の頃より満たされているかもしれないが、SNSによるいじめや受験のプレッシャーなどにより精神を病んでしまう若者も一定数いる。もし日本の成人までの学校教育に決定的に欠けているものがあるとすれば、それは「幸せに生きるための考え方」を教授することではないだろうか。

私がポスドクをして苦しかったとき、行きつけの理髪店のおばちゃんが「斉藤一人」さんの講演を聴かせてくれ、非常に救われた。また、偶然早朝に目覚めたときに放送されていた「テレビ寺子屋」で、それまでの考え方を変える衛藤信之先生の素晴らしい講演を聞くことができた。Youtubeでは植松努氏の「Hope invites」などの素晴らしい考え方を拝聴することができる。さらに「嫌われる勇氣」で一大ブームとなったアドラー心理学も、精神的に困っている若者を救う一助になると考えている。若者全員にこれらの情報が行き渡ることは難しいかもしれないが、困っている若者にはこれらの情報が行き渡るように努力していきたい。

エネルギーも人の心も太陽のような明るい世の中になればと望んでいる。

\* 東京工業高等専門学校 物質工学科